



こーひーぶれいく

ダイバーシティとガーデニング

志田原 美保

Shidahara Miho

最近「ダイバーシティ」という言葉をよく聞くようになってきた。2022年に、私が勤務する東北大学でも Diversity, Equity & Inclusion (DEI) 宣言が発出された。DEIとは、互いの属性で安易な分断をせず、多様性を尊重することでより豊かな発展を目指すという未来志向の概念であると理解している。2023年、私が所属する日本核医学会でも DEI 委員会が発足した。この「ダイバーシティ」と私の趣味である「ガーデニング」について日々考えていることを書きたいと思う。

週末の自宅の庭で太陽の日差しを浴びつつ、芝刈り、草むしり、剪定、花苗の植付けをしながら、ふと研究のことを考える時間が好きである。キッチンで料理をしながら窓越しに庭を眺めるのも好きである。出勤前に庭を一巡りすることで活力を得ている。ただし、元々花が好きだったわけではなく、生まれて久しく植物とは無縁な生活を送っていた。

2011年3月、東日本大震災で被災した。当時、日々変化する状況に対応するため緊張が続き、その様子は灰色の風景として記憶に残っている。その年の初夏、野菜直売所で野菜を購入した際に「無料でお配りしているので」と1ポットの花苗をいただいた。芝を敷き詰めただけの自宅の庭の片隅に苗を大事に地植えし、そのピンクの明るい花を眺めることが日課になった。後に、日日草の一種のナツザクラという品種であることが分かったその苗は、毎日綺麗な色の花を咲かせ、灰色の生活に彩りと活力を与えてくれた。

1年草のナツザクラが枯れた後、花の彩りに囲まれた生活を送りたいという思いが日々強くなり、ふと2007年の英国留学時に訪れた様々な英国式庭園



写真 英国留学時に Hever Castle で撮影した緑の彫刻と呼ばれるトピアリー

のことが思い出された(写真)。私が留学していたのは、Imperial College London Hammersmith Hospital の PET Methodology Group という研究室であった。英国式庭園の散策は、研究の議論で煮詰まった思考を整理するのに最適だった。この花に囲まれた生活への憧れは、なぜか産休・育休中にピークに達し、ガーデニング書籍を読み漁り、花の名前や性質を、受験勉強のように詰め込み、妄想を膨らませ、ついに自分らしさが詰まった宿根草中心の庭を手に入れることができた。

庭の植栽を考える中で、軸の一つになったのが東北大学のシンボルである紫のハギであった。園芸用のハギの花色には、紫だけでなく白、黄、青、小豆色等があり、これらの品種を植えて庭のダイバーシティと愛でていた。この話は大学の広報記事にも書いたが、実は後日談がある。数年経つと、植えた株達は思った花色にならず、いくつかの品種は似た色になってしまった。朱に交われれば赤くなるのか、園芸品種の先祖返りなのか。

今現在、植えた株の個性・成長を尊重する DEI の精神で、持続的・発展的に豊かな庭になることを目指した週末ガーデナーとして成長しつつある。また、大学で指導教員をしている立場からすると、学生の個性を同一環境(研究室)で似た性質にしてしまうような指導をしていないか、多様性を十分に尊重できていないのではないかと戒めのようにも思えてくる。ガーデニングを通じてダイバーシティを考える生活はこれからも続きそうだ。

最後に……最近、我が庭が野良猫の激しい縄張り争いの場となって困っている(本来の所有者は私である!)。争いのニュースの多いご時世で、彼らも互いを尊重し平和に共存することを庭主として切に願っている。

(東北大学大学院工学研究科)
[2024年日本核医学会賞受賞者]